

第五講 ヘロドトス：歴史と文化史の誕生

【レポート課題】

次のキーワードを参考に、自分たちの世代の小さな同時代史を書きなさい。(5月22日提出)

【キーワード】

AKB48 東日本大震災 9・11 同時多発テロ ゆとり世代 スマートフォン 地下鉄サリン事件 オバマ大統領 iPod リーマンショック LINE プリキュア ワンピース 阪神淡路大震災 さとり世代 少子化 あまちゃん イラク戦争 IPS 細胞 郵便民営化 スカイツリー ポケモン 初音ミク おジャ魔女どれみ 北京オリンピック

歴史とは：人間の営為を記録し後世に伝える（ヘロドトス）

偉大な業績が忘れ去られていくことから救うため

忘却（自然）に抗して記憶（人為）しようとする意志

歴史からの神話の排除 ～探求～

historizein(探求する)→History (歴史)

何故、ペルシア戦争が起きたのか。

直接的にはイオニアの反乱にアテナイとエレクトリアが援軍を派遣したこと。

原因を探求。「何故」という好奇心。

ソフォクレスの『オイディプス王』と共通

イオニア哲学の産物（神話を批判）

万物の根源を探る

歴史を探求する際の文化の重要性

エトノス毎の文化についての記述に多くの頁を割いている

ギリシア中心主義ではない

「そこで我々としてはイオニア人の説は採らず」

(Hdt. 2. 17)

「ギリシアの伝承には、ずいぶんと浅慮軽薄なものが多い…」

(Hdt. 2. 45)

多文化主義

「ピンダロスはノモスこそ万物の王であると主張した
Πίνδαρος ποιῆσαι νόμον πάντων βασιλέα φήσας εἶναι.
(Hdt. 3. 38. 4)

各エトノスの文化に優劣の差異をつけない

イオニアの地理的位置と文化・経済

サルディスの宮廷に去っていくサッフォーの弟子

都市の中にペルシア人の邸宅などが存在

オリエント各地との交易

建築労働者や傭兵としてオリエントの諸君主に雇われる

メソポタミアやエジプトからの文化の流入

データの収集

旅行による見聞

「ペルシア人についてこれまで述べてきたことは私自身の知識に基づくものであるから確信をもって言うことができる」(Hdt. 1. 140)

自分の理性（常識）による判断

「しかし私の考えるところでは・・・」(Hdt. 2. 15)

「これまでは私が自分の目で見たこと、私の見解及び私の調査したところを述べてきた。」(Hdt. 2. 99)

「～というのが彼らの語ったところである」(Hdt. 2. 91)

現象（事実）と原因の因果関係。

語られたまま伝える

真偽の判断：常識（理性）

「ありのままの真実を伝えようとする者の説に従って、記述していくつもりである。」(Hdt. 1.95)・・・キュロスについて

て

「また私には信じられないことであるが、同じカルデア人の
いうところでは、神が親しくこの神殿に来て、この寝椅子に
休むのだという。」(Hdt. 1. 182)

バビロニア人の習俗について・・・売買婚 (Hdt. 1. 196)・
神殿売春 (Hdt. 1. 199)

「さて従来 of 諸説を攻撃したからには、この解明困難な問題
について今度は評者自身の見解を述べねばなるまい・・・」
(Hdt. 2. 24)

「これまでは私が自分の目を見たこと、私の見解及び私の調
査したところを述べてきた。これからはエジプト人の話して
くれたことを、私の聞いたとおりに記していくことにしよう」
(Hdt. 2. 99)

「以上がエジプトの祭司たちの話であるが、ヘレネに関して
彼らの語ったところには私も賛成で、それというのも私は次
のように考えるからである」(Hdt. 2. 120)

「～の話によれば」(Hdt. 2. 107)

文化史

ピンダロスの言葉を引用

社会によって正義は異なる。それは慣習の違いによる。

教訓

アジアとヨーロッパという神の定めた世界を順守すること
死ぬべき運命にある人間の限界→アナンケー（運命）を知る
こと

アポロンとクロイソス：初代のギュゲスの犯罪

傲慢（人としての限界を無視）→忠告→無視→神の罰→賢人
クロイソス、クセルクセス